

『研究方法論基礎』 A-17-1

題 目： マルチレベル分析

担当教員： S.V. Subramanian (Harvard School of Public Health) ・高尾総司

講義目標：

マルチレベル分析の基礎について、わかりやすい事例を用いた講義を受けることで、その必要性を理解する。

講義内容：

Harvard School of Public Health の Ichiro Kawachi 教授の「社会疫学イントロダクション」で紹介されたように、社会疫学は一人の個人よりもマクロな社会に着目し、健康の社会的決定因子を明らかにしようとするアプローチであるが、地域レベル変数の個人への影響を妥当に評価するためには、従来から用いられている統計手法では不十分である。

個人のアウトカム(y)は個人のリスクファクター(x)を調整した上で、地域レベル変数(X)の影響を評価することになる。そのための手法がマルチレベル分析である。

予習事項：

特になし

参考書籍：

ー不平等が健康を損なう (イチロー・カウチ他編著), 2004, 日本評論社

ーソーシャル・キャピタルと健康 (SV スブラマニアン他編著), 2008, 日本評論社

『研究方法論基礎』 A-17-3

題 目： 産業保健基礎
Introduction to Occupational Health

担当教員： 高尾総司

講義目標：

産業保健の基礎を学ぶと共に、具体的に産業医として従事するために必要な資格等についても知る。

講義内容：

産業医という名称を聞いたことはあっても、実際にどのような業務に従事しているのか、あるいは、産業医業務に従事するために必要な資格等については、学部講義では履修できていない大学が少なくない。一方で、仮に直接的に産業医業務に従事することもなくても、臨床医として、労働者である患者に対して「就労が可能である」との診断書を発行する機会は決して少なくない。

本講義では、産業保健の基礎として産業医の業務を中心に学ぶとともに、産業医業務に従事するために必要な資格（日本医師会認定産業医制度）の取得の仕方を含む制度についても学ぶ。また、近年、産業医を対象とした訴訟において、初めて産業医が敗訴するなど、職場の健康管理をめぐる状況は大きく様変わりしていることから、これからの産業医に求められる資質や業務内容（メンタルヘルス対応等）についても言及する。

予習事項：

特になし

参考書籍：

- －社員の健康管理の実務と法律知識（石寄信憲著），経林書房，2005
- －メンタル不調にどう対応すべきか（ビジネス・レーバー・トレンド 2011 年 7 月号）
<http://www.jil.go.jp/kokunai/blt/backnumber/2011/07/018-021.pdf>
- －健康管理は社員自身にやらせなさい（高尾総司著），保健文化社，2014

『研究方法論基礎』 A-17-4

題 目 新規登録者対象の法令で定められた RI 教育訓練
Education and Training for Radiation Workers

担当教員： 大原直也

鹿田地区の RI 施設を新規に利用する方のための教育訓練です。

第 1 日目 (13:00~16:20)

- 講義 1 放射線の人体にあたる影響
- 講義 2-1 放射性同位元素等の安全取扱い(講義)
- 講義 3 放射線障害の防止に関する法令
- 講義 4 放射線障害予防規程

第 2 日目 (13:00~16:00)

- 実習 放射性同位元素等の安全取扱
- 外国人対象は 10:00~17:00

教育訓練を完了するには、上記の講義・実習を全て受講する必要があります。

受講する場合は、教育訓練の詳細をご確認のうえ、受講してください。

※ 教育訓練を受講する場合は、事前に申込みが必要です。

下記 URL より受講申込用紙をダウンロードし、「光・放射線情報解析部門鹿田施設 管理室」に提出してください。

光・放射線情報解析部門鹿田施設 <http://hikari2.med.okayama-u.ac.jp/>

提出先 : 光・放射線情報解析部門鹿田施設 管理室

全ての講義・実習を受講し教育訓練が完了した場合、研究方法論の出席として扱いますので、最後の受講施設にて、「出席カード」に押印をもらってください。

(講義・実習の一部受講のみでは教育訓練は完了となりません。その場合、研究方法論の出席とすることも出来ません。)

『研究方法論基礎』 A-17-5

題 目： トランスレーショナルリサーチ概論1

担当教員： 田澤 大・藤原俊義

講義目標：

創薬シーズの基礎研究から臨床応用に至るまでのプロセスを理解し、トランスレーショナルリサーチの概念を学ぶ

講義内容：

トランスレーショナルリサーチは基礎研究の臨床応用が基本概念であるが、そのシーズ技術によって開発プロセスや到達目標が異なる。岡山大学で進められてきたがんの遺伝子治療、ウイルス治療は、医師が中心となる臨床研究から企業主体の臨床試験まで、幅広い臨床応用が試みられてきた。それらの開発状況を実例として学ぶことにより、トランスレーショナルリサーチの多様性を理解し、現実の創薬シーズの開発スキームの立案能力を養成する。

予習事項：

特になし

参考文献：

ーがん化学療法・分子標的治療 update (西條長宏、西尾和人、編集)、内外医学社、2009
ー固形癌に対するウイルス療法 (藤原俊義) 癌と化学療法 36:703-709、2009.

『研究方法論基礎』 A-17-6

題 目： トランスレーショナルリサーチ概論2

担当教員： 那須保友

講義目標：

トランスレーショナルリサーチ (TR) の意味を理解し、そのために必要な事項を理解することができて、今後各自が従事するであろう研究の位置づけを確認することができる。

これから医学研究に従事する院生にとっての動機づけとなることを期待しています。

講義内容：

トランスレーショナルリサーチ (TR) の実例を紹介しつつ、TR 推進に求められる事項を説明する。 - ウイルスを取り扱う際の注意事項

研究の立案に必要なこと

知的財産に関する注意点

論文作成の意義

臨床研究実施に必要な法規的事項

予習事項：

特になし

参考文献：

特になし

『研究方法論基礎』 A-17-7

題 目： 女性研究者論 Career development as a female researcher

担当教員： 片岡仁美

講義目標：

女性研究者としてどのようなキャリアパスを構築するか、男性研究者としてどのようなパートナーシップを構築すべきかを学ぶ。

講義内容：

女性研究者・女性医療人の就労支援、男女共同参画社会の実現の必要性は社会に広く認識され、大学を含む様々な事業体で女性研究者、女性医療人支援策が次々と提案されている。しかし、2005年(平成17年)の女性研究者の割合を比較すると、我が国の女性研究者の全研究者数に占める割合(12.4%、27位)は、国際的に著しく低いレベルにある。

研究者の productivity が論文の質、研究成果のスピードなどの尺度で語られているのは異論のないところであろう。しかし、日本では家庭生活を営む際の責任(育児、家事、介護)が女性に重くのしかかっていることは事実であり、このことが日本における男女共同参画が諸外国と比べて著しく遅れていることの一つの要因でもある。それでは、女性研究者はどのように研究者としての productivity を上げ、かつライフイベントと両立できるのだろうか?本講義では、文献の考察とケーススタディから女性研究者として育むべきスキルを学び、また、男性研究者には今後一層増加する女性研究者とより良きパートナーシップを構築するための考え方を学んで頂きたい。

予習事項：

特になし

参考文献：

Notable Women in the Life Sciences, Benjamin F. Shearer, Barbara S. Shearer, Greenwood, 1996

女性医師としての生き方—医師としてのキャリアと人生設計を模索して片井 みゆき, 櫻井 晃洋, じほう, 2006

『研究方法論基礎』 A-17-8

題 目 職業選択と自己実現 ―予測し、行動する―
Career choice and the self-realization - predicted and act -

担当教員 町田尚史

講義目標 本講義のねらいは、受講生に自らの専門知識を社会の中でどのように生かし、自己実現を図るかについてレクチャーすることである。如何に素晴らしい研究成果を保有していても、社会の中でどのように生かすのか、社会にどのように貢献できるのか、を示すことができなければ有益ではない。本講義では研究内容を生かしながら自己実現するためのキャリア・デザインの基礎を簡単な演習も交えて実践的に行う。

講義内容

- ① キャリア・デザインとは何か
- ② 自己認知とその手法
- ③ キャリア・アンカーを学ぶ

予習事項

特になし。講義の性質上、質問を歓迎する。

参考文献

エドガー・H. シャイン(金井 寿宏 訳) 2003 キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう― 白桃書房

【英語授業の対応】: 不可